

[学会発表 2006年]

1. Noubissi F., Elcheva I., Bhatia N., Shakoory A., Ougolkov A., Liu J., Minamoto T., Ross J., Fuchs S.Y., and Spiegelman V.S. CRD-BP mediates stabilization of  $\beta$ TrCP1 and c-myc mRNA in response to  $\beta$ -catenin signaling. In: Keystone Symposia “Wnt and  $\beta$ -catenin Signaling in Development and Disease”, Snowbird, UT, April 7-12, 2006.
2. Noubissi F., Elcheva I., Bhatia N., Shakoory A., Ougolkov A., Liu J., Minamoto T., Ross J., Fuchs S.Y., and Spiegelman V.S. Stabilization of  $\beta$ -TrCP1 mRNA by CRD-BP in response to Wnt signaling pathway activation. In: “The FASEB Summer Research Conference on Post-transcriptional Control of Gene Expression: Mechanisms of mRNA Decay”, Snowmass Village, CO, June 24-29, 2006.
3. Noubissi F., Elcheva I., Bhatia N., Shakoory A., Ougolkov A., Liu J., Minamoto T., Ross J., Fuchs S.Y., and Spiegelman V.S. Mechanisms of stabilization of  $\beta$ TrCP1 and c-myc mRNA in response to Wnt/ $\beta$ -catenin signaling. In: “Aspen Cancer Conference”, Aspen, CO, July 16-19, 2006.
4. 山下 要, 高橋 豊, 源 利成 (招請). 胃癌転移の包括的遺伝子解析の試み. 第 76 回日本衛生学会総会 ミニシンポジウム-癌の遺伝子解析, 2006年3月25-28日, 宇部.
5. 二宮 致, 高村 博之, 伏田 幸夫, 木南 伸一, 川上 和之, 谷 卓, 西村 元一, 藤村 隆, 萱原 正都, 太田 哲生. 食道扁平上皮癌における MMPs, TIMP-3 発現性と癌部及び血清中 TIMP-3 遺伝子 promoter 領域 hypermethylation の解析. 第 106 回日本外科学会総会 (サージカルフォーラム), 2006年3月29-31日, 名古屋.
6. 今井美和, 河原 栄, 源 利成. 大腸癌背景粘膜における IGF2 遺伝子の刷り込み現象異常. 第 95 回日本病理学会総会, 2006年4月30日-5月2日, 東京.
7. 元雄良治, 島崎猛夫, 源 利成. 膵癌細胞に対する塩酸ゲムシタビンの抗腫瘍効果の分子機構. 第 37 回日本膵臓学会大会 パネルディスカッション 1. 膵癌化学療法の最前線, 2006年6月29日, 横浜.
8. 源 利成 (招請). 消化器がんにおける GSK3 $\beta$  の発現, 活性・機能解析とがん制御への応用. 第 43 回日本臨床分子医学会学術集会 Translational Research Forum II 癌・消化器, 2006年7月20日-21日, 札幌.

9. 川上和之, 渡邊 剛, 源 利成. チミジル酸合成酵素の遺伝子多型と LOH 解析に基づく大腸癌の予後判定と化学療法の効果予測. 第 17 回日本消化器癌発生学会総会 ワークショップ 消化器癌の新しい薬物療法へ向けて(2), 2006 年 9 月 14 日-15 日, 名古屋.
10. 源 利成, シャクーリ アッバス, 麦 威, 宮下勝吉, 安本和生, 高橋 豊, 川上和之. 新しいがん標的 GSK3 $\beta$  の活性阻害による移植大腸癌細胞の増殖抑制. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006 年 9 月 28 日-30 日, 横浜.
11. 川上和之, 渡邊 剛, 源 利成. 遺伝子多型を利用した抗癌剤の tailored molecular modulation 法開発. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006 年 9 月 28 日-30 日, 横浜.
12. 島崎猛夫, 中島日出夫, 源 利成, 元雄良治. 腺癌細胞における塩酸ゲムシタピンによる新規アポトーシス関連分子の発現変化. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006 年 9 月 28 日-30 日, 横浜.
13. 宮下勝吉, 麦 威, 藤沢弘範, 濱田潤一郎, 川上和之, 源 利成. 神経膠芽腫における GSK3 $\beta$  の発現, 活性と機能解析. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006 年 9 月 28 日-30 日, 横浜.
14. 麦 威, 宮下勝吉, 島崎猛夫, 中島日出夫, 元雄良治, 川上和之, 源 利成. 消化器癌細胞における GSK3 $\beta$  活性の非放射性測定法による検出と機能解析. 第 65 回日本癌学会学術総会, 2006 年 9 月 28 日-30 日, 横浜.
15. 源 利成, 高橋 豊, 川上和之. 大腸癌の新規標的酵素 GSK3 $\beta$  の活性機能解析とがん制御への応用. DDW-Japan 2006 : シンポジウム 2 消化管腫瘍の分子診断と標的治療 (消化器病学会), 2006 年 10 月 11 日-10 月 13 日, 札幌.
16. 源 利成. 糖尿病, 認知症とがんに共通する疾患マーカー: 大腸癌における発現, 活性・機能解析. DDW-Japan 2006 : シンポジウム 21 消化器がん検診に有用な危険因子 (H. pylori, ペプシノーゲン以外) -がん検診の層別化・個別化の可能性- (消化器がん検診学会・消化器病学会・消化器内視鏡学会合同), 2006 年 10 月 11 日-10 月 13 日, 札幌.
17. 源 利成, 高橋 豊, 川上和之. Wnt シグナルに関わる大腸癌の新しい分子細胞メカニズムとがん制御への展開. DDW-Japan 2006 : ワークショップ 9 大腸がんの発育進展と治療 (消化器病学会・消化器内視鏡学会合同), 2006 年 10 月 11 日-10 月 13 日, 札幌.

18. 源 利成, 高橋 豊, 元雄良治, 川上和之. 新規がん標的酵素 GSK3 $\beta$  の発現, 活性・機能解析と消化器がん制御への応用. 第 44 回日本癌治療学会総会 ワークショップ 3 分子標的治療の最先端, 2006 年 10 月 18 日-20 日, 東京.
19. 西村元一, 魚谷知佳, 太田哲生, 源 利成. 大腸癌検診における便潜血定量値の解析: 浸潤癌ハイリスク群集約への有用性. 第 44 回日本癌治療学会総会 シンポジウム 12 臓器別にみた癌検診の現状, 2006 年 10 月 18 日-20 日, 東京.
20. 源 利成 (招請). Wnt/ $\beta$ -カテニンシグナル経路の新しい分子細胞メカニズム: 大腸がん医療への展開. 第 19 回日本バイオセラピー学会学術集会総会 特別講演 1 (ランチョンセミナー), 2006 年 11 月 30 日-12 月 1 日, 福岡.
21. 源 利成 (招請). 大腸がんの基幹的細胞シグナル破綻とがん病態, 免疫化学療法感受性とアウトカム. 癌免疫療法シンポジウム 2006 in Osaka, 2006 年 12 月 9 日, 大阪.